

岩手県遠野普及指導区における間伐推進と間伐材の利活用について

岩手県遠野地方振興局林務部 上席林業改良指導員 熊谷 雄裕

1 指導区の概要

当指導区は、岩手県東部に広がる北上山地の中南部に位置し、遠野市・宮守村の一市一村からなる面積 82,562ha の区域である。この内森林面積は 68,683ha で、森林率は 83%と県平均を約 6 ポイント上回っており、気候的には寒暖の差が大きく、盆地状の平野の少ない地域である。

民有林は 38,949ha で、その内人工林面積は 54%に当たる 20,951ha となっており、県平均を 10 ポイント上回る比較的人工林率の高い地域である。

また、人工林のうち 4～7 齢級の要間伐森林に 8～9 齢級を加えた間伐対象森林は 18,091ha で人工林面積の 86%を占め、間伐の必要な森林の比率が高く、間伐の推進が緊急かつ重要な課題となっている。

図一 1 遠野指導区の位置図・表一 1 管内の土地、森林の現況

2 課題として取り上げた理由

このような指導区内の状況を踏まえて、「平成 12 年度林業普及指導事業実施計画」の重点事項の第 1 に間伐の推進を掲げ、市・村や森林組合等と一体となり間伐の推進に積極的に取り組んでいる。

また、本県では、今後 5 年間で 150 万 ha の森林を緊急かつ計画的に整備する、国の「緊急間伐 5 カ年対策」を受け、昨年 8 月 11 日に「岩手県緊急間伐 5 カ年計画」を定め、計画的かつ総合的に民有林での間伐並びに間伐材の利活用を推進することとした。

このことから、当指導区では当該計画に基づく間伐実施面積及び間伐材利用材積の目標をそれぞれ 780ha、6,800m³に設定し、目標を達成するため関係者が一体となった間伐推進、間伐材利用促進に向けた当指導区の取組みを報告する。

表一 2 岩手県緊急間伐 5 カ年計画・表一 3 遠野地区間伐協議会の計画目標

3 取組みと成果

(1) 間伐推進

ア 従来、形式的に開催していた地区間伐協議会を、上記間伐 5 年計画達成の推進母体となるよう市・村、森林組合、振興局等関係者の役割分担をより明確にするなど組織強化を図り、今年度の目標の設定、推進策等の具体的な検討を行った。

図一 2 平成 12 年度における間伐の具体的な推進策

イ 今年度の具体的な推進策の一つである緊急間伐団地は市・村に各一箇所設定することとし、遠野市分については昨年 12 月 7 日に説明会を兼ねた座談会を開催し、活発な意見交換により森林所有者から同意が得られ、区域面積 266ha、今年度実施予定の特定間伐 30ha が確保され、遠野市との緊急間伐協定の締結も完了した。また、宮守村分についても同様に区域面積 89ha、今年度実施予定の特定間伐 10ha の団地の設定が完了し、協定締結の段階となっている。

表一 4 緊急間伐団地の概要・写一 1 緊急間伐団地設定説明会

ウ 地区間伐推進協議会で決定した座談会の開催計画では、間伐計画とりまとめまでの時間が少ないこと等から、地区を定めて重点的に開催することとしたが、遠野市分については、市、森林組合、林業改良指導員が参加し、12月11日、13日の両日に遠野町、松崎町の4箇所において合わせて森林所有者56名の出席を得、間伐推進を重点とした座談会を開催した。

座談会の中で特に森林所有者が興味を示したのは、補助事業に対する市の嵩上げ制度の説明で、間伐計画とりまとめに有利に働いたと考えている。

今後、宮守地区においても同様の座談会が計画されており、関係者が一体となり積極的に間伐を推進することとしている。

また、森林組合においては独自の座談会を1月15日～20日の間に9会場で開催したが、林業改良指導員も各会場にできる限り参加し、間伐を推進した。

写一2 林業座談会・表一5 市・村の間伐に対する嵩上表

エ 間伐を推進するに当たり、言葉だけの話し合いではなかなか森林所有者の理解と協力が得られにくいことから、今年度、緊急間伐団地を設定する集落で間伐講習会を行い、その場所を展示林に設定することとし、2月中旬の講習会開催に向け準備中である。

また、既存の展示林については昨年度から看板の付け替え、林内の整備を行い、森林所有者が気軽に訪れ、間伐を実施する際の参考にしてもらえるようにした。

オ 間伐推進・間伐材の利用促進に係る働きかけやPR活動は、ともすれば森林所有者のみを対象として行いがちであるが、一般市民に対する啓蒙・普及も大切であるとの認識から、10月7・8日に開催した「遠野地域国産材まつり」や11月11日に開催した「一日移動遠野地方振興局」において、パンフレットの配布、間伐パネルの展示、間伐小径材を利用した木工工作等によりPRに努めた。

写一3 国産材まつり・写一4 一日移動遠野地方振興局

カ 一方、児童・生徒に対する森林・林業教育については、昨年度、遠野市立土淵中学校において、2002年から始まる総合学習の時間に対応する教育の一環として、林業改良指導員が講師となり、年間8回にわたり林業体験を中心に行った。

また、遠野市立附馬牛小学校では、5・6年生の環境教育が継続して行われており、各グループが調査、研究した発表会に林業改良指導員がアドバイザーとして参加したり、学校林の整備のなかで、間伐の必要性と施業の方法を説明するなど森林・林業教育を実践した。

写一5 総合学習「下刈体験」・写一6 環境教育発表会

(2) 間伐材の利用促進

ア 当指導区内にある「遠野地域木材総合供給モデル基地」は木材の生産・加工・流通体制のシステムを確立するため、平成6年度から整備を進めてきたが一部繰越事業をのぞき平成11年度にほぼ完成したことから、これまで以上に間伐材を利用しやすい条件が整った。特に、基地内の集成材工場で製造される中・大断面集成材の中心部分である内層材に間伐材ラミナの使用が可能であることから、更なる利用拡大が期待される。

写一7 遠野地域木材総合供給モデル基地全景・写一8 大断面集成材使用事例

イ 間伐材の利用促進を地域の重点課題と位置付け、指導区内の林業関係者等を構成員にした「中小径材利用推進検討部会」を年2回開催し、間伐材利用の情報交換、利用事例を示して利用推進に積極的に取り組んできた。

この成果として、平成9年に263m³であった利用実績が、平成11年度には公共土木事業を中心に利用が促進され約6倍に当たる1,511m³の実績となった。

写一9 河川工事における丸太格子護岸工・写一10 林道工事における法枠工

ウ 当地方振興局土木部が整備中の「一般県道遠野東和自転車道」において、遠野市内来内川の「たかむろ橋」(L=20.5m、W=4.0m、荷重6.18t、事業費50,000千円)の工事は、当初計画ではPCで計画されていたが、自然景観、県産材利用促進の観点から、林務部と土木部との連携により木橋として平成11年に遠野産カラマツ、アカマツ集成材34m³を利用して施行された。

この事例を踏まえ、当部では平成13年度林道開設事業において、延長40m、幅員4m、荷重25tの集成材を使用した木橋を架設するべく検討に入った。

写一11 木橋「たかむろ橋」

エ 当管内においてはアカマツ材の利用促進も重要な課題であることから、関係者と土木用外構部材としての利用を検討した結果、平成11年度「ふるさと林道小出中滝線」でアカマツ間伐材を利用した集成材によるガードレール100m(6m³)、側溝蓋400m(10m³)を施行し、13年度においても引続き施行予定である。

写一12 木製ガードレール使用状況・写一13 木製側溝蓋使用状況

写一14 間伐材を利用した工事事用看板

以上、関係者が一体となり間伐の推進と間伐材の利用促進に積極的に取り組んだ結果、前年度の1.6倍の間伐が確保され、地区間伐推進協議会で設定した目標が概ね達成できる見通しがついた。

4 課題と今後の在り方

(1) 今年度の最重点課題として間伐の推進を掲げたにもかかわらず、取組みが遅れ、補助事業のとりまとめ段階で慌てる事となった。

来年度以降においては、年間の業務計画、事業の進行管理を徹底し、年度当初から余裕を持った間伐の推進に当たることとする。

(2) 今年度の林業普及指導事業実施計画重点事項の第1に間伐の推進を掲げ、林業改良指導員全体で推進することとしていたが、実際は間伐事業担当者に任せきりの状態であり、林業改良指導員としての課題に取り組もうとする認識が薄い。今後は、業務連絡会をこまめに開催するなどにより、認識を新たにし取り組むこととする。

(3) 当地域は、豊かな森林資源に恵まれた地域であるが故に、逆に一般市民の森林整備に関する意識が低いと感じられる。

間伐の推進は森林所有者のみに啓蒙しても効果が上がらないことから、森林所有者を含めて一般市民、関係者が一体となり地域の森林整備に対する意識を醸成するため、来年度において「遠野地方林業振興協議会」主催による除間伐や枝打体験を行うことを計画している。

(4) 今年度（平成11年度繰越事業）に林業構造改善事業で森林組合に導入されるGIS（地理情報システム）は、事業費36,897千円で、造林地の施業図の作成、施業実績管理等の造林業務支援システム、森林計画図上における任意の作業道路線形の作図、設計等を支援するシステム、林況、伐採方法及び現場の作業形態別の伐採・搬出コストを推計するシステム、素材販売額を推計するシステム、伐採・搬出コスト及び素材販売額の推計から収支計算、受託事業の見積書の作成等を行う収益評価・見積書作成システムの機能を有するものである。

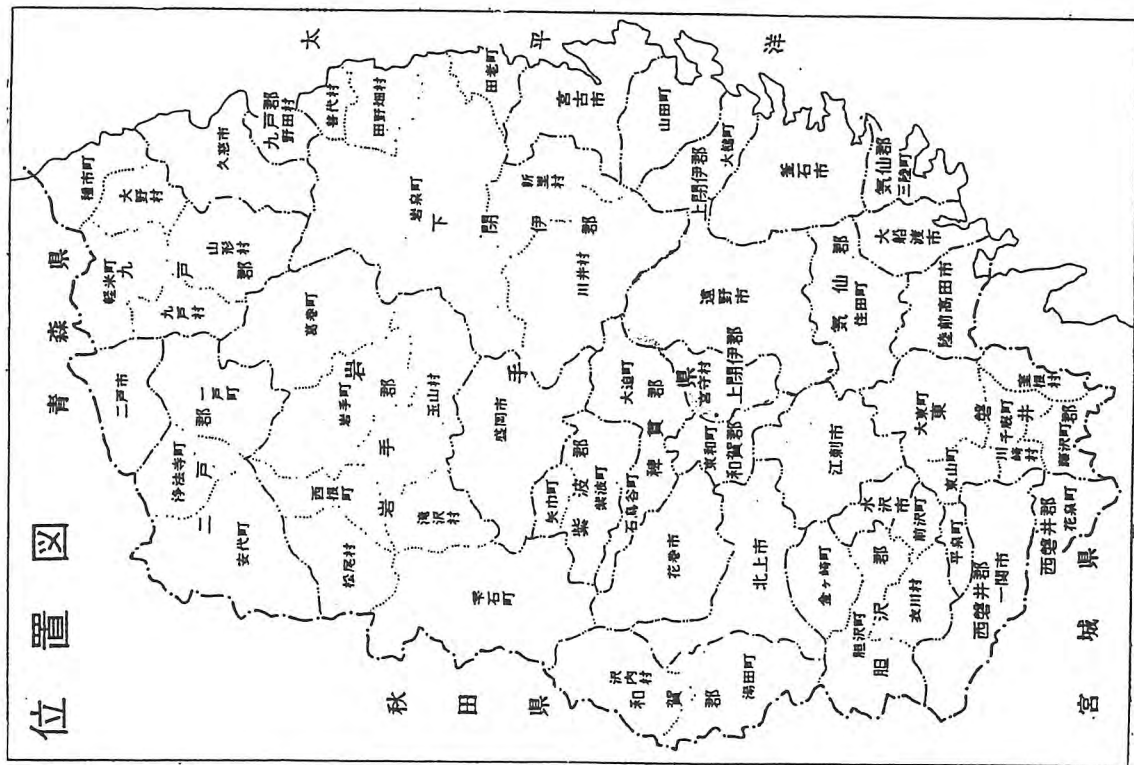
GIS導入後、即実践的に稼働することにより間伐の推進に最大限の機能を発揮できるよう人的体制、支援態勢を整備する必要がある。

(5) 間伐は森林組合の受託によりそのほとんどが実施されているが、今冬のように近年にない多雪の場合、作業能率が低下することから、次年度の地区間伐推進協議会においては、他の事業体との労務の調整を中心に協議する必要がある。

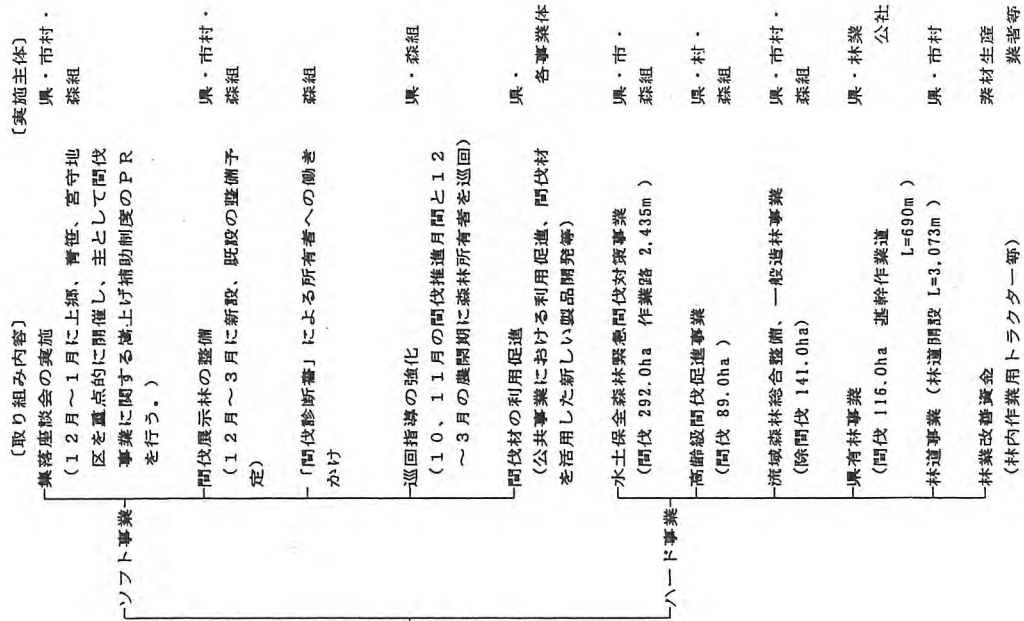
(6) 補助金だけでは間伐の推進に限界があり、また、間伐材の利活用に確実に結びつけていけない限りは、更なる間伐の実行確保は困難であることから、新たな用途開発に向けた検討を行う必要がある。

今後においては、その取り組みのひとつとして当地域で機運が盛り上がりつつあるバイオマスエネルギーとしての利用も含め、新用途利用を地域で検討する。

図一1 遠野指導区の位置図



図一2 平成12年度における間伐の具体的な推進策



表－1 管内の土地・森林の現況

区分	区域面積	森林面積			森林率	民有林 人工林面積	民有林 人工林率
		国有林	民有林	計			
遠野市	66,038	26,631	28,790	55,421	83.9	15,877	55.1
宮守村	16,524	3,103	10,159	13,262	80.3	5,073	49.9
管内計	82,562	29,034	38,949	68,683	83.2	20,951	53.8
岩手県	1,527,818	399,423	783,006	1,182,429	77.4	342,709	43.8

単位：ha、%

表－2 岩手県緊急間伐5ヶ年計画

1. 間伐実施計画面積

区分	5ヶ年計画	年度別計画				
		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
間伐面積 (ha)	82,000	15,000	15,600	16,600	17,000	17,800

2. 間伐材利用目標

区分	5ヶ年計画	年度別計画				
		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
利用量 (m ³)	708,000	126,000	132,000	143,000	149,000	158,000
利用率 (%)	59	57	58	59	60	61

表-3 遠野地区間伐推進協議会の計画目標

間伐実施計画面積	780ha
間伐材利用目標	6,800m ³
間伐材利用率目標	58%

表-4 緊急間伐団地の概要

市町村	団地名	協定締結面積	年度別間伐実施計画面積				
			12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
遠野市	平野原	266	30	42	41	44	41
宮守村	寺沢	89	13	18	24	16	18

単位：ha

表-5 市・村の間伐に対する嵩上げ

遠野市	国土保全森林緊急間伐対策事業（国庫）	市が22%の嵩上げをする （最終的な補助率は78～94%）
	高齢級間伐促進事業（県単）	市が10%の嵩上げをする （最終的な補助率は50%）
	※ 土場又は作業路から基地内貯木場までの間伐材の運搬経費	一律1,800円
	国土保全森林対策事業（市単）	間伐率に応じhaあたり 50,000～150,000円
宮守村	流域森林総合整備事業（国庫）	通常間伐 村が12%の嵩上げをする （最終的な補助率は68～80%） 特定間伐 村が8%の嵩上げをする （最終的な補助率は80%）
	高齢級間伐促進事業（県単）	村が20%の嵩上げをする （最終的な補助率は60%）

単位：ha

写-1 緊急間伐団地設定説明会



写-2 林業座談会



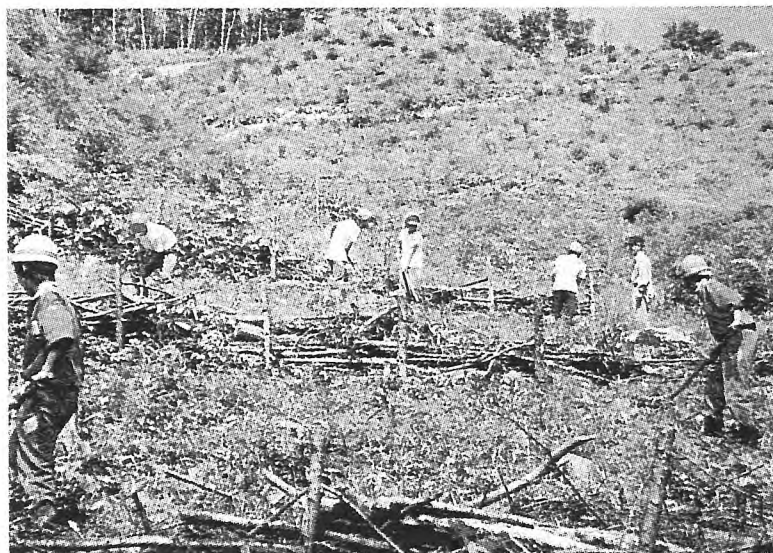
写-3 国産材まつり



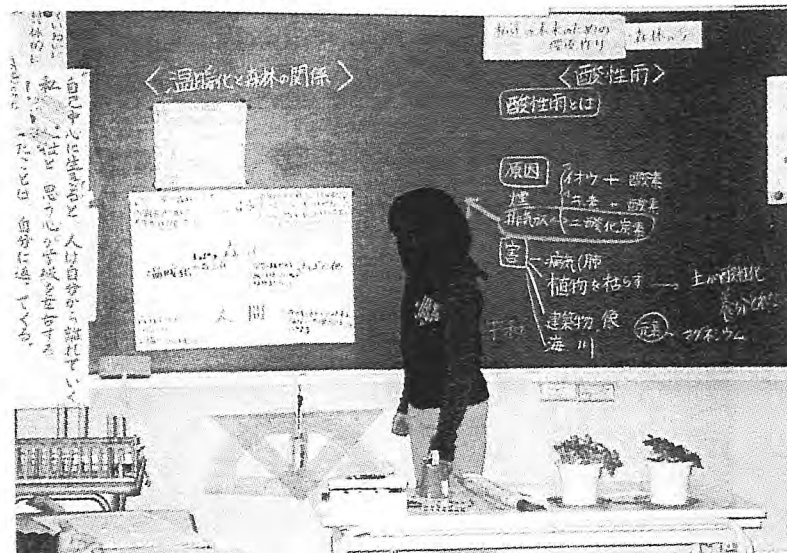
写-4 一日移動遠野地方振興局



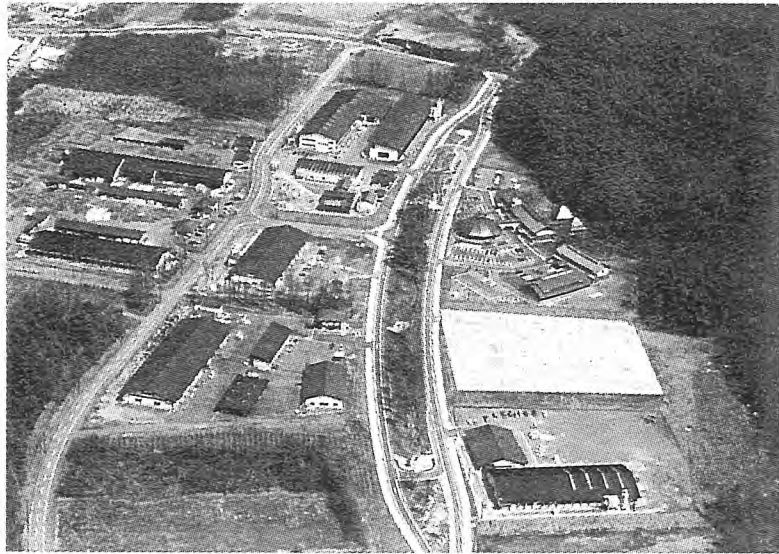
写-5 総合学習「下列体験」



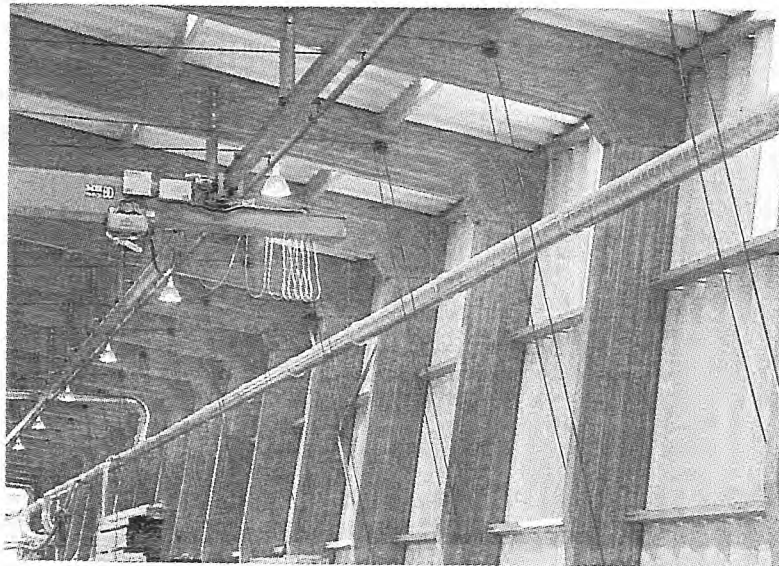
写-6 環境教育発表会



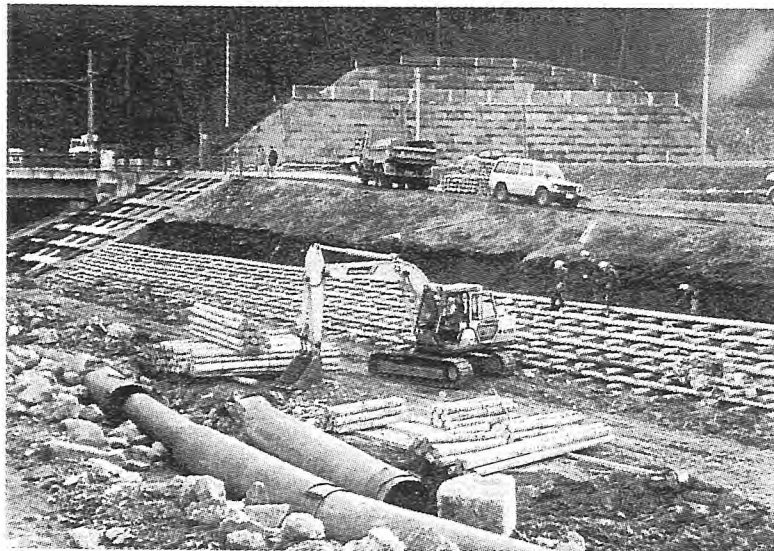
写-7 遠野地域木材総合供給モデル基地全景



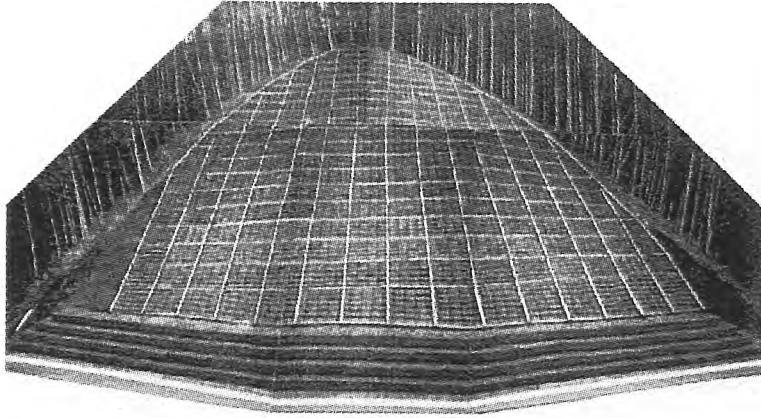
写-8 大断面集成材使用事例



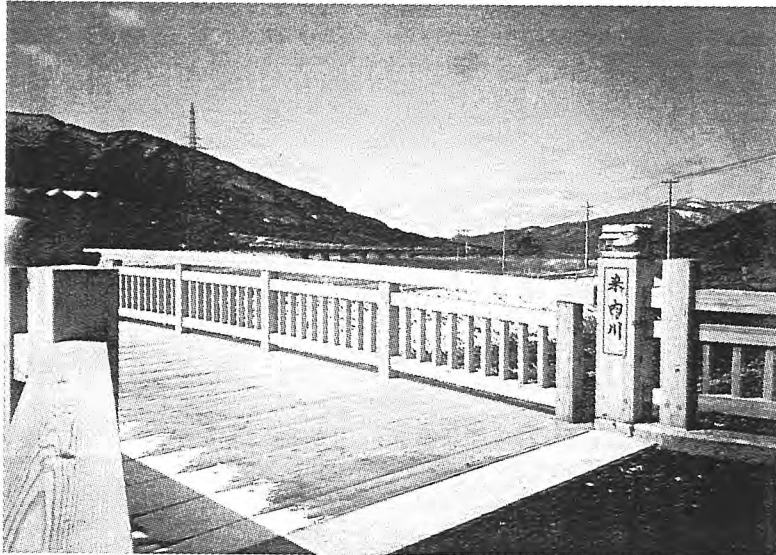
写-9 河川工事における丸太格子護岸工



写-10 林道工事における法砕工



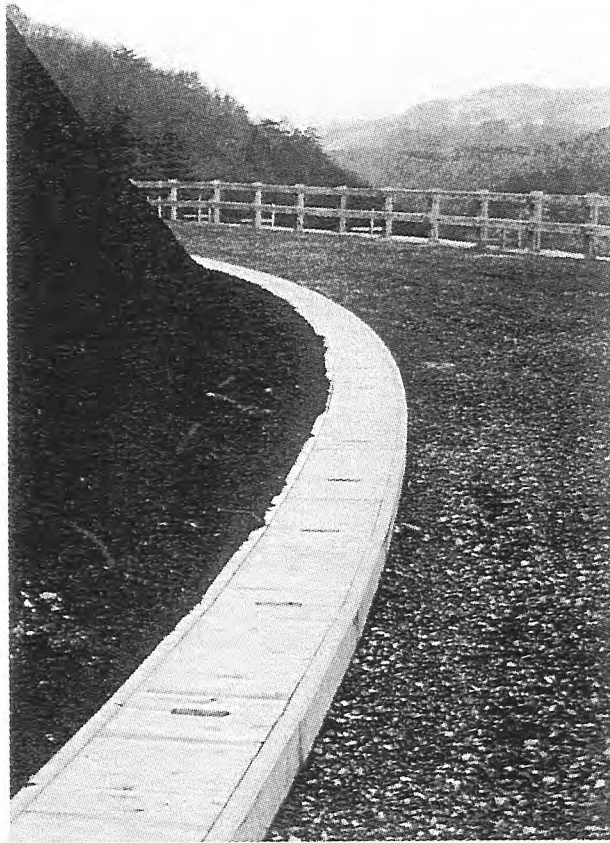
写-11 木橋「たかむろ橋」



写-12 木製ガードレールの使用状況



写-13 木製側溝蓋の使用状況



写-14 間伐材を利用した工事用看板

